

令和2年5月1日

記者発表

新型コロナウイルス感染症対策の充実について

1 PCR検査の充実

(1) 地域の中核病院にリアルタイムPCR検査機器を導入

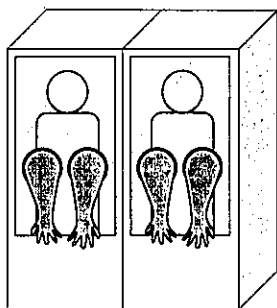
- ① 目的 地域の中核病院（非公表）において、リアルタイムPCR検査機器を導入し、迅速に検査結果を把握可能にすることで、地域医療提供体制の維持及び医療従事者の感染防止を図ることを主目的とする。
- ② 導入時期 令和2年5月中旬から順次導入。検査は5月下旬から順次実施予定。
- ③ 検査対象 入院を要するような救急患者、術前患者、出産前妊婦、感染の可能性がある医療従事者など県が指定。
※ただし、陽性となった場合は、当面、直ちに行政検査も実施する。
- ④ 必要検査機器 新型コロナウイルス検出キット（島津製作所製）、リアルタイムPCR検査機器、安全キャビネット等。
- ⑤ 検査所要時間 1回の検査で1時間半程度

(2) 県環境衛生研究センターにPCR検査機器を追加導入

- ① 目的 行政検査の能力向上
- ② 導入時期 令和2年3月導入済
- ③ 効果 PCR検査機器が2台から3台となり、1日あたりの検査処理件数が40件から60件に増加。

(3) ウォークスルータイプPCR検査用ブースの導入

- ① 目的 集団感染の発生や発生患者数の増加を見据え、検体採取をする医療従事者の感染を予防し、効率的に検体採取をするため。
- ② 導入時期 未定



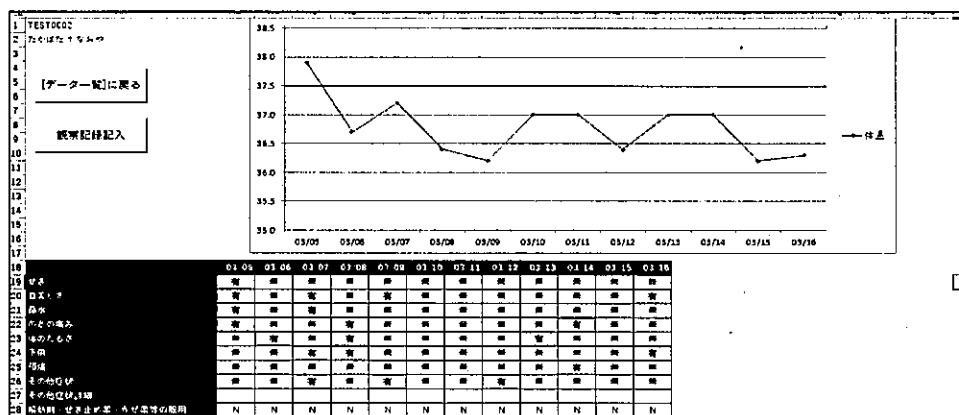
イメージ図

2 医療物資の確保

- (1) マスクの購入 国からの配布分に加え、235.4万枚を購入
(4月～6月上旬納入予定分)
- (2) アルコール 国からの配布・斡旋分に加え、4,030リットルを購入
製剤の確保 (4月～5月上旬納入予定分)

3 患者および濃厚接触者の健康観察に「健康観察PHRアプリ（健康日記）」を導入

- (1) 目的 保健所が新型コロナウイルス感染症患者の多数の濃厚接触者の健康観察を実施する場合に、効率的に対象者の健康状況を把握するとともに、今後、宿泊療養の患者の健康観察にも活用することを目的とする。
- (2) 導入保健所 これまで和歌山市保健所、海南保健所、橋本保健所で活用
今後、県内全保健所に展開
- (3) アプリの制作 京都大学、和歌山県立医科大学等が共同開発
※元々は日頃の健康観察をするために制作したもの
- (4) 効果
- ・ 対応保健師等の負担軽減
 - ・ 対象者の健康状態を時系列に把握可能



個人ごとに体温や症状の健康観察ができます

1 (1)、2 担当課・者	薬務課・藤岡、石原
1 (2、3) 担当課・者	健康推進課・並川
3 担当課・者	健康推進課・中村
電話番号	薬務課 073-441-2660 健康推進課 073-441-2656